

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①目的意識・相手意識をもてるように自ら課題を選択できるようにし、学ぶ楽しさを実感できる対話的な授業づくりを推進する。②ICTを効果的に活用し、子どもが学びを選択しながら学習して基礎学力を高めるとともに、自他の考えを比較しながら学び合う場を設定し、ともに高め合う姿勢を養う。③言語活動の充実を図り、相手や目的を意識して言葉を選択しながらコミュニケーション力を育成する。④地域で関わる人や地域の材を活かし、切実感のある課題を設定し、自ら粘り強く問題解決学習に取り組む姿勢を養う。
担当	重点研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1) 学力に関わる児童の実態 学力面では市の平均を下回る学年が多い結果となっている。学習意識においては全体に高い。 ・高学年は「文学的な文章」や「説明的な文章用」の読解の通過率が高かった。 ・国語に対する学習意識は高く、読書に意欲的に取り組んだり、文章を書くことに抵抗がなかったりという点を活かし、学習につなげていけるとよい。4年生以上は読み取りに抵抗がある分野のばらつきが見られる。低学年の段階から、話の展開を整理しながら読むという習慣を身に付けることが必要である。 ・算数は2・3年生で市の平均を上回る通過率の分野があった。全体的には「式」や「数」「割合」より「図形」や「統計」を得意とする傾向が見られる。 ・算数に対する学習意識も高いので、朝学習の時間などに、「式」や「数」など基礎的な学習の内容の反復練習を行い、学習の定着を目指す必要がある。</p> <p>(2) 生活意識（自己意識）の概要 生活意識全体をまとめた結果はおおむねやや高い数値である。項目ごとに見ていくと、「あいさつを自分からしている」「目標に向かって取り組んでいることがある」などが比較的高い数値となっており、自己意識の高さが伺える。 「自分のことが好き」「自分にはよいところがある」などの項目でも市より高い数値となっており、自己肯定感の高まりが現れている。今後も人権意識や自己肯定感を高めていけるような支援を継続していくことが必要である。 「学校図書館に行く」は昨年より数値が上がっており、学校図書館での読書推進への成果がうかがえる。「ネットの使い方」に関しては、ゲーム時間が長くなっており、家庭と連携してSNSに対する指導を行っていく必要がある。</p>

今年度の目標
子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的で対話的な学びを充実させるため、学習の楽しさ切実感をもてる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実を図り、学び合いを通して学習する楽しさを味わわせ、コミュニケーション能力の育成を図る。 ○興味・関心に応じて取り組みたいと思える具体的な学習課題を設定することができるようにする。 ○目的を意識して、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもてるようにする。 ○相手意識や目的意識のある課題を選択できるようにし、必要感をもって粘り強く話を聞くことができるようにする。 ○互いの意見のよさを感じながら、比較検討し、共通点や相違点に着目できるようにする。 ○課題をよりよく解決できるように、ICTを有効活用し、適切な方法を選択したり、見通しをもって活動したりすることできるようにする。 ○朝スタ、教科分担・専科・少人数指導、特別支援体制の充実により、基礎基本の定着を図る。 ○朝読書や読み聞かせ、図書の時間を効果的に活用したり、学校司書と連携して教科の学習で並行読書や調べ学習を取り入れたりして、読書活動の推進と目的読みの力を高める。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ○目的意識をもって話し合うことで、自分の意見のよさや相手の意見のよさを感じられるようにする。 ○話し合い活動を取り入れ、相手意識をもって自分の思いや考えを伝える力を高め、コミュニケーション能力の充実を図る。 ○自身の考えを図や表を用いるなどの表現方法で伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで、自身の考えを深めていく。 ○各教科の学習の初めに自分のめあてを明確にして学習を進められるようにし、デジタルドリルなどを活用して子どもが課題を選択して自己調整しながら、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○全国学力・学習状況調査や横浜市学力・学習状況調査の結果から成果と課題を分析し、学習指導計画に生かす。 ○まちの「人・もの・こと」を関連付けた学習を意図的・計画的に進めることで、相手意識・目的意識をもった学びを深め、地域の一員として自分ができることを考えられるようにする。